

2013年以降の主な米軍機トラブル

2013年	2月5日	離陸したオスプレイが普天間飛行場の外で水筒落下
	4月2日	普天間飛行場所属のAH1攻撃ヘリが燃料タンクのキャップを紛失
	5月28日	嘉手納基地所属のF15戦闘機が国頭村の東南東約60キロの海上に墜落
	6月5日	嘉手納基地所属のHH60救難ヘリが国頭村と東村にまたがる米軍北部訓練場内に緊急着陸
	8月5日	嘉手納基地所属のHH60救難ヘリがキャンプ・ハンセンの山中に墜落炎上。乗員1人死亡
	9月28日	普天間飛行場でオスプレイが長時間低空ホバリング、海兵隊が着陸計器の異常を発表
14年	10月29日	嘉手納基地所属のHH60ヘリが本島北部の訓練場に向かう途中でカメラ1台を落下
	3月2日	オスプレイが嘉手納基地に着陸後、右側エンジンから白煙
	4日	嘉手納基地所属のF15が本島北西128キロの海上で風防ガラスを落下
	5日	普天間飛行場所属のAH1ヘリがホワイトビーチ沖で強襲揚陸艦への着艦に失敗

基地周辺住民「怒り心頭」

米軍機事故が相次ぐ一方で、その原因すら日本側に報告されていないことが6日、分かった。基地周辺の住民は「説明がなければ不安はぬぐえない」と反発する。

嘉手納基地を抱える嘉手納町南区の仲村一自治会長(51)。米軍が過去3度のF15戦闘機の風防ガラス落下原因を報告していないことを知らされ、「4回も起き

る事故なのに報告が一度もないのはおかしい。本当に原因を究明しているのかすら疑問だ」と話す。

普天間飛行場所属のAH1ヘリも事故を起こし、「怒

り心頭の一言。抗議のたびに再発防止を約束してもらっているが、守られなければ事故の恐怖は払拭されないと語気を強めた。AH1は普天間周辺の市街地上空を日常的に旋回訓練している。新城区の與那覇政勇自治会長(66)は「オスプレイやF15の事故があり、地元が抗議している最中だ。米軍はどういう神経

をしているのか」と憤る。「飛行場内でホバリングしていることもあり、同じようなことが起こりうる」と不安を募らせた。

野嵩一区の新城嘉隆自治会長(46)は「整備不良なのか、脚が折れるほどの激しい訓練をしたのか…。米軍は説明してほしい」と原因究明と公表を求めた。

内々で処理 安全軽視の温床

在日米軍を監視する市民団体「リムピース」の頼和太郎編集長の話(米軍が過去3度の墜落事故の原因報告をしないのは)「ちょっと信じられない。米国内で同じ事が起きたら、米国民から絶対に追求されるはずだ。」

原因となった細かい部品名などが非公開扱いだとしても概要だけでも明らかにできるはずだ。こうした状況を放置してきたということは、日本政府が自国民の生命を守るといふ基本的な仕事をやってこなかったことも意味している。

強い風圧を受ける風防ガラスは少しでも浮けばすぐに外れる。原因は、部品の老朽化で整備でも見逃したと推測できる。原因を非公開にして内々で処理すれば危機意識は希薄になり事故を繰り返すことになる。

原因究明 やる気は